

—編集後記—

今年は、9月に国家試験が実施されました。私も受験に備え、勉強をしていたわけですが、正直、大変でした。普段、学生に教える立場にいるとはいえ、出題範囲が広く、改めて勉強する事柄もありました。「現職者だし、大学教員だから、試験を免除してくれないかなあ」と勝手なことを考えながら、初心に戻る良い機会が得られたと感じています。

心理学のこれまでの知見を整理してみると、さまざまな知見が積み重ねられ、現在の心理学の体系があることを感じることができました。特に、ここ最近のテクノロジーの進歩によって、これまで分からなかったことが明らかになってきており、まさに日進月歩の感があります。それらの知見に比べると、自分が取り組んでいる研究は「小さな研究」に見えるかもしれません。

しかし、それらの知見はどこから急に出てきたものではありません。それこそ「小さな研究」の積み重ねが大きな成果、つまり「確かな知見」につながっています。研究や臨床の成果をたとえ小さくとも、それをまとめて発表していくことの重要性が、そこにあると思います。本号に掲載されている論文や事例報告も、その積み重ねがきっと「確かな知見」につながっていくことを期待しています。

最後に、臨床心理士試験の合格記や職場紹介など、ご寄稿頂いた院生、修了生、先生方に感謝を述べたいと思います。今号を多いに盛り上げて頂き、ありがとうございました。また、編集作業に多大な貢献をいただいた日高先生に深く感謝いたします。

高浜 浩二

作新学院大学大学院心理学研究科

臨床心理センター研究紀要 第11号

発行 平成30(2018)年9月30日

発行所 作新学院大学大学院心理学研究科附属臨床心理センター

〒321-3295 栃木県宇都宮市竹下町908

TEL 028-670-3813

印刷 株式会社 松井ピ・テ・オ